



刊夕日六十月二十

常警論壇
物價安の歳晚市場
 田中五郎
 ◇歳の暮は迫つて来た不景氣の聲で押通して来た今年の晩景は果して如何なるものか上半期までの極度な悲観が下半期にはいつて幾分うすらいだといふものゝ上を見ても下を見てもまだ景氣の回復とまでは行かない苦しい算段の年末なるものは矢張り月並式に泣きながらも通過して行くには相違ないけれど
 ◇農作氣分の農村は何といつても懐具合はよいやうた繭もよもよ米もよもよ

と来たのでその筋では早くも農村の實力を五億圓と見積つたさうだが果して如何なるものか即断し兼ねるの論は勿論だけれど積年の困憊から少からず浮き上がったことだけは事實として認められる
 ◇日用品の首位にある米價が下落の傾向なので一般物價もだんだん下向いてゐるこの分なれば歳晚の市場では案外安いものが買へるであらう今日のところは生産費より割出した小賣値では到底市場に人氣を呼び得ないのだから業者として早く運用し得るに至れば本望

といふべきであらう
 ◇何といつても現代は宣傳の巧拙によつて勝敗が分れる店頭裝飾が店頭藝術とまで進歩して行くやうに各商店主の頭腦が活動すれば平の街頭も舊套を脱するのであるこの點から見ると歳晚の市場は一つの試験場となつてゐるが果して及第するかどうか場面は既に開かれてゐる (をばり)

定一部金貳錢 廣五號十二行 日曜大發 郵局掛印長崎町三五
 價一ヶ月廿錢 告一語一錢 刊一語一錢 日一語一錢 刊一語一錢 日一語一錢
 郵局掛印長崎町三五 電話六三〇番

看護婦派出所
 の求めに應ず
 平看護婦會
 電話三〇七番

加藤營業所
 平白銀町十五番地
 振替口座東京六二四三番
 電話三二二番二五五番

家賃
 仲間町 商店向 十圓
 白銀町 醫院向 五圓
 櫻町 勤人向 三圓
 内郷村 小島
 勤人向 六圓
 神戶大災 平代理店
 南洋火災 平代理店
 共保生命 警東代理店
 御用は電話二三番へ

赤心堂病院
 内科・外科・花柳病科
 耳鼻咽喉科・婦人科
 平町町電話四七五番

牛
 一人前 四十錢
 一人前 六十錢
 右充分に勉強振りを發揮し候積りに付きは非一度御試食を賜り度く候
 尚ほ一般洋食は従前通りの値段に改正
 平町一丁目横町 (電話六二〇)

親切第一
 營業課目
 裝飾器具
 電球・電線
 ベルト類
 芝浦(モートル)特約店
 日立(トランス)特約店
 電話機及各種乾電池
 通信用器具
 電機並諸機械修繕
 致マース

吉田眼科醫院
 町屋紺
 電話三三六番

時候に叶つた 平所松公園池の端
小舟
 料理店は
 釜屋商店
 警城平町五丁目電話一三九九番

釜屋商店
 警城セメント會社特約店
 和洋銅鐵
 金物問屋

鳥
 一人前 五十錢
 一人前 六十錢
 右至急募集す本人來談の事
 平町南町 (電話四十七番)
芹澤自動車部
 停留場 警城銀行向

助手募集
 男子(十五歳ヨリ)各一
 女子(十八歳マデ)名宛
 平町南町 (電話四十七番)
芹澤自動車部
 停留場 警城銀行向

便利と經濟の親玉
 瓦斯で火をおこすには電氣ト金物特賣の「瓦斯火おこし」に限りません。炭がくすれず取扱に便利でございませう。特價つた金貳拾錢です。御家庭用の釘抜き又は金鋸には「小松式四德金鋸」をおすすめ致します。特價僅か廿貳錢で其の便利な事實に驚きます。特製打刃物はすべて請合ひます。經濟の親玉文化電、東洋電、大正電の御試用をも願ひます。
 平停車場前 平電氣株式會社
電機ト金物販賣部
 電話平四二八番

品質優良 米精内関
 平町橋町長町
 番〇六一出呼話電 町橋長町平
 スマシタイ達配速早ズラハ拘ニ少多ハ文注御
 スマ願シ試御ハ度一非是

今冬最新流行
 子帽・物洋
 タシマヒ揃山澤ガノイ安
大谷洋品部
 店計時谷大
 番九十話電目三町平

喜多林之助
 平町月見町
 紀念石、彫刻石
 土 炭石
 建築請負
 石 炭石
 材 炭石
 販 炭石
 販 炭石
 (強勉大もれ何)

目明
 代價拾錢
 藤田家傳
 藤田榮助
 平町町電話三三六番



警察當局と... 鐵道とは意見が別

十二日夜警越東線で何者か に盗まれた百七銀行の現金 一萬一千圓の行方について は鐵道警察協力して捜査し てゐるが該現金託送の直接 責任者として柳山で十二日 夜引續き取調への制動手 七海喜藏(三九)からは

何等の 端緒も得る
能はず郡山署でも連日連夜 血まなこになつて捜査の歩 を進め、中野司法主任は十三 日夜來いづこにか姿をかく し取調へにつき各署と連絡 をとつてゐるが今のところ 警察側では該

犯人は 鐵道関係者
であるとし鐵道側では鐵道 關係者外に該現金發送事情 につまびらかな者の所爲で あるといふ日星で捜査を進 めてゐる

要領を得ない 事を口走る
田中支店長
一萬一千圓を盗み去られた 當の責任者第百七銀行平支 店長田中稔氏は落ちつかぬ 態度で「私共の方としては 完全に紛失したといふこと が確定した譯でないから何 ともし上げられないが紛 失したる鐵道の責任につい て私共の方も調査中である と一寸も要領を得ない事を

平驛長語る
責任はない
辯償の
口走つて居た

景氣の好い ボーナズ話
十萬圓溢る
常磐炭田界の不況は前年度 に比して一層甚だしいと云 はれてゐるが左記大炭礦は さすが

大會社の 經營だけ
年末賞與も巨額にのぼり 到底の會社の追従を許さな い有様であり昨十五日を以 て大休調査を了し廿日前後 一般に支給される筈である と云ふが

捕鯨の... 根拠地貸下
存外早く解決か
小名濱築港に於ける埋立地 の東洋捕鯨根拠地並に同濱 漁業組合に對する貸下問題 に就て地元では一日も早く 借受けたいとの希望で捕鯨 根拠地に就ても大阪市の本 社より支配人内田耕氏本月 中旬を期して來縣する事と なつて居るので縣では更に 横田技師をして小名濱組合 とも再度の交渉をなさしめ た上四日東京水産局に貸下 同意の打合せをなさしめた 爲の問題とされてゐた捕鯨 根拠地は豫定より割合に早

湯本火防宣傳 石城 郡湯本町消防組にては十五 日

吉田氏町議を辭職 四倉町民の反感益々昂る 既報石城郡四倉町會議員吉 田壽三郎氏が忍かに海岸の 國有地帯を拂へ下げんと爲 した爲め俄然町民が反對運 動に激起し遂に騷擾事件を 惹起するに至つたが十四名 の熱血兒が收監さるゝに及 んで同町は全く意氣銷沈の 傾きとなり吉田氏の身邊に は更らに遺恨の眼が集中す るに至りし依り過般の町民 大會の決議に基き此際いさ ぎよく公職をなげうつは人 心を緩和するの一法ならん と勸告する者も多き爲め吉 田氏は周圍の空氣の甚だ險 惡なるを知つて漸く此程町 議の辭表を提出したと傳へ られて居る

海にザンブ 溺死体發見 相馬郡福浦村大字浦切渡邊 金所有高砂丸乗組水夫志賀 董(三)は十四日午後四時頃 富岡沖合にて船から綱を下 さんとした際過つて綱に足 を凌はれ海中に墮落其儘屍 体不明となつたのを十五日 午前十時頃双葉郡村上沖合 に出漁中の石城郡江名町中 長吉田金次郎が発見平署に 届出た

火事と誤り 大騒ぎを演ず 石城郡夏井村大字大越字 北の内農本廣太方にて十 四日午後六時頃自宅屋敷内 田浦の害虫を驅除せんと約 二畝歩に糞を散らし焚火じ たのを附近の者が火事と間 違へ消防手迄駆付けて大騒 ぎを演じた

不平受付 投稿觀迎 國道に個人便所 平町字 長橋町の入口に當る國道に 不潔な個人の便所と露店同 様な店が突出して居ります が自働車の交通瀦繁を極む る今日何んとか一日も早く 取形付ける事が出来ないで せうか(無名氏)

植頭區長の答 アレは 佐藤リツが其筋より國道 を使用許可願つてあるも のでして區としては徹廢 のでして區としては參りませ んが隣地が迷惑を感じる ものであつたのだとすれば其 筋は直ちに許可取消の手 續きを採るものと考へら れますから徹廢出來るか どうかは隣地の意氣込み 如何に依つて決せらるべ きです

ノートルダムの せむし男を公開 通俗講演の大家として知ら れた茨城縣古河幼稚園長丸 山義一氏は趣味映畫を以つ て民衆教化を試むべく文藝 映畫「ノートルダムのせむ し男」其他數種を廿三四の 兩日晝夜に亘り有聲座に於 て公開し自身説明の任に當 る由であるが同氏は先年本 郡教育會に招聘されて郡内 各所の講演會に快辯を揮つ た事あり慶應義塾の出身で ある關係上石城三田會も應 援すると

平町人事 結婚 平町字二〇 農道藤忠四郎氏(二 六)長橋町三六 鈴木チヨ(二五) 石城郡大野村 野崎金平氏(三一) 一丁目二四 久野エイ(二二) △東京市四谷區榮榮町 保險會社員 植木正吉(二五)田町一六 鈴木チ ャ(二二)

青年忘年會 谷口樓にて 平町青年團は廿日午後六時 から谷口樓に於て忘年會を 開き前團長大森勇氏を始め 本年退團した左記分團長を 招待する由にて會費二圓 酒井清、柏原喜八郎、竹 内彌一郎、櫻村三男吉、 赤塚勇吉、小管金平、安 藤廣吉、松崎秀吉、新井 淺石工門、清水重厚、新井

石城海兵検査 石城 郡海軍志願兵検査は來年二 月十三四の兩日郡衙にて執 行さる

職員百六十五人月俸三ヶ 月から五ヶ月分一人平均 二百圓位職工八百人日給 十日分より三十日分位迄 一人當り二十八圓、 △警備隊職員六百八人月 俸二ヶ月分より三ヶ月分 一人平均百五十圓位職工 二千五百人日給八日分よ